



小枝 郁哉 農業部門（農業土木）

勤務先：株式会社ルーラルエンジニア札幌支店

私は、ルーラルエンジニア札幌支店に勤務しております。当社は、農業土木を主体とする建設コンサルタントで、主に農業基盤や生活環境の整備に関する業務を行っております。技術者となって、はや20数年、そろそろ“オヤジ”とよばれる世代となってきました。これまで農業施設の測量・設計、土地改良事業計画などの業務を担当してきましたが、最近はその内容も少しずつ変わってきました。平成14年3月の閣僚会議決定で「新生物多様性国家戦略」が策定されて、同年4月の改正土地改良法施行により、われわれの業務に直接関係する農業農村整備事業においても「環境との調和に配慮」することが原則となりました。農業に限らず、今、何をやるにしても「環境」は時代のキーワードになっております。自分の生活圏周辺の環境から、業務で関係する地域の社会環境や自然環境までいろいろな環境があります。

このため私も自然環境調査に係る業務を行うようになりました。サンショウウオの卵探し、帰化植物の刈り取り、魚の網すくい、ライトをつけての昆虫採り、早朝からの鳥観察など、なんだか子供のころ野原や小川で遊んだことが思い出されます。オヤジ世代として昔の豊かな自然を懐かしみながらの仕事です。今、これらをとおして、幅広いチャンネルをもったエンジニアが要求される時代になってきていることを強く感じております。



次号は、武田 孝さん（農業部門）



五十嵐 陽一 上下水道部門（下水渠）

勤務先：日本上下水道設計㈱札幌事務所 TEL(011)231-0948 FAX(011)231-0957

私は1992年（平成4年）に今の会社に入社し、初めは東北6県を受け持つ仙台事務所への赴任でした。私は生まれも育ちも北海道なので、初めて“津軽海峡を越えた”のですが、仙台も北海道と似て気候的にも住みやすく、各県のクライアントにも慣れ（ある県の人が方言で話されると、▲○■※×……本当に全く分らなかった）、そろそろ東北人になりかけていた頃に北海道へ転勤となりました。

北海道の下水道普及率は平成16年3月末現在85.8%と全国平均値の66.7%を大きく上回っておりますが、我々にとっては普及率が高い＝新しい仕事が少なくなり、受注量（給料）減と将来が不安になってきます。

先日あるテレビを見ていたら、“ローテクがハイテクに変わる……”というものをやっていました。その昔CD（コンパクトディスク）が普及し始めた頃、アナログなレコードに未来は無くレコード針を作っている会社は潰れて無くなると言われていたが、その技術（ダイヤモンドを削る技術）を応用して今は最先端の仕事をしていると言うものでした。そこで言われていたのは、“何をおいても基礎技術が大切だ” “そして優れた技術を高く売るのではなく、如何に安く売るかも技術だ” と……。これからは、より自分の技術を磨き、如何により「早く・良く・安く」仕事を行うかであると思っています。



次号は、吉田卓史さん（上下水道部門）

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



当間 功一 建設部門（専門分野）

勤務先：北日本港湾コンサルタント株式会社

山・川の自然に囲まれ育ったためか、海に憧れ海洋関連の学校に進み、1977年（昭和52年）に北日本港湾コンサルタント株式会社に入社しました。入社以来、港湾構造関連の設計を主に担当しています。最近は自然災害による被害が増え、復旧検討に協力する機会が多くなりました。その中でも昨年は、私が設計を行った防波堤が、2004年（平成16年）9月の18号台風で被害を受けたとの連絡を受け、直ぐさま現場に駆けつけてみると完全に・見事に、転倒し有るべき場所には海面しかなく血の気が引ける思いをしました。今までに、地震災害では南西沖・釧路沖・十勝沖等災害復旧のお手伝いをして来ましたが、高波災害でこれほど大きいに被害を経験したことは有りませんでした。被害状況から考え、『想定以上の波力が作用したな』と直感しましたが、同時に設計にミスはなかったか？ と設計担当者としての不安にも駆られました。その後、災害復旧検討のお手伝いする機会を頂き、想定以上の波力が作用し倒壊に至ったことを報告し、現在は復旧工事が進められています。近年では、地球温暖化による平均海面の上昇や台風の強大化が報告され予測出来ない自然災害に見舞われることが考えられ今後、技術者として被害を最小限に留める構造配置、どこから壊すのか、どこまで壊すのかがこれからの設計かと考えております。今年こそは、被災のない年で有ることを願い、少しでも安全な国土造りに貢献できればと思っております。



次号は、佐藤典之さん（建設部門）



小松 友治 機械部門（化学機械）

勤務先：アトカ機械設計事務所 TEL(011)683-0888

平成15年3月に40年近く勤めた会社を無事卒業して3年目になりました。退社年に念願の技術士の資格を取得することが出来、独立技術士として仕事をしています。企業にいた時、長期にわたって経験した仕事は、フィッシュミール製造設備でした。昭和50年ごろより、平成2年ごろまでで、設備機器の見積もり、設計、そして据付、試運転引渡しまで担当しました。簡単に説明すると、フィッシュミール製造設備は、魚をクッカーで煮てこれをプレスし、魚の身は乾燥して魚粉に、液からは高速分離機で魚油を回収します。フィッシュミール製造設備は多数の機器で構成された総合プラントで、私の技術力は、この時に得た知識と経験に寄る所が多いと思っています。平成の初めごろから、全国的に原料の水揚げ量が減少し、現在では、ミール工場も少なくなりました。しかし、近い将来イワシが北海道沿岸に押し寄せ、かつてのようにミール工場が活躍することをねがっています。

振り返ってみると、勤めていたころは何時も時間におわれ、余裕のない仕事をしていたように思います。独立した今は気負うことなく楽しく仕事をしています。これからは、何事にも挑戦する気分を失わずに仕事を継続していくことが技術士として社会に貢献することと信じ、技術士の責任を果たしていこうと思っています。



次号は、熊井敬明さん（機械部門）



吉田 一雄 上下水道部門（下水道）

勤務先：函館市役所土木部河川課河川係

1978年（昭和53年）に函館市役所に奉職して以来28年目に突入した技術者です。勤務地は、井の中の蛙ごとく、函館以外出たことはありませんが、河川、下水道、道路、用地と土木技術者ながらさまざまな職場をまわっております。これまでの業務では特に、工事の際の周辺家屋への地盤変位を考慮した設計に意を注いできたと思っております。また、災害復旧工事では、1993年（平成5年）の北海道南西沖地震による下水渠の変位、マンホールの浮き上がり対策工事を経験したことと、古くは1981年（昭和56年）の豪雨災害が記憶に残るところです。一昨年からは用地課に配属となり、土木技術者とは少々縁遠くなっておりましたが、今春、河川係に勤めることになりました。18年ぶりの河川係です。1997年（平成9年）の河川法改正以来、環境を主眼とした河川計画に改められたことを今更ながら驚いております。しかし、約30年前に始まった河川改修事業も、いまだに事業を継続している河川があります。河川事業は、何十年も要する事業なのだと思いためて思い知る今日この頃です。

最近では技術士らしい活動がおろそかになっていると思われそうですが、道南技術士協議会に参加することによって、いろいろな技術分野の方々から貴重なお話を伺っております。特に最近、国際水産海洋都市の函館をメインにお話を伺っております。水産の函館よろしく願いいたします。

（追記） 函館朝市に新しい名所ができました。イカ、ウニ、マグロおいしいですよ。



次号は、岡田治道さん（水産部門）



山下 誠一 建設部門（道路）

勤務先：北海道 建設部都市環境課都市整備グループ

私は、道南の今金町出身で、1992年（平成4年）に道職員として採用され、主に地方道（道道）の整備に携わってきました。2004年（平成16年）からは、現在の部署で主に土地区画整理事業に係る国庫補助に関する事務を行っております。

土地区画整理事業は、都市計画道路とそれらに囲まれた生活道路等を一気に整備し、土地の区画を使いやすいように整形することで、都市を「面的」に整備する事業です。

当事業は保留地を処分して、その収入を利用して事業展開を図る自給自足的なイメージがあると思いますが、一定の条件を満たす地区であれば、国から補助金を支出してもらえます。その際施行者となる市町村等と国とのパイプ役が必要となりまして、それが現在の私のメインの仕事です。

最近は保留地が売れなかったり、市町村さんの財政が厳しかったりしまして、なかなかうまく事業展開が図れないケースも出てきています。これは公共事業全般に言える話で、すんなり進む事業はほとんどなく、地元対応や困難な現場条件等、みんなで知恵を出し合っていないとうまく行かないものばかりです。そして、その知恵を出し合う中で、技術士で言うところの「専門的な应用能力」が活かされるような気がします。しかし最近思うに、私自身、果たして技術士としての資質を仕事にフィードバックできているか、大きな話では「社会貢献」できているか、自問自答することが多くなりました。今後も、その意識を少しでも片隅に入れつつ、知恵を出し合うプロセスの中で自身の技術力を向上させていきたいと思っております。



次号は、坂野雅人さん（建設部門）

エンジニアパーク

Engineer



古川 武志 設部門（道路／河川砂防および海岸）

勤務先：基礎地盤コンサルタンツ(株)関西支社

TEL (06)6536-1591 E-mail: furukawa.takeshi@kiso.co.jp

平成2年4月に入社し、その後の6年間を東京で過ごし、平成8年の春に生まれ故郷の北海道に帰って来られたと安堵しながら9年間を過ごしていたところ、なんとこの春、大阪勤務を命ぜられ生まれ故郷を後にした今日この頃でございます。折角の機会ですので、ここで俄関西人の私が見た、関西のココが凄と思う点を幾つか紹介させて頂きたいと思えます。1つ目は お好み焼き 屋が本当にいっぱいあります。これは私の住んでいる港区だけの特征かもしれませんが、石を投げればお好み焼き屋 に当たりそうなくらいあります。2つ目は大阪市 通局発行の前売り乗車券（札幌のウィズユーカード相当の品）にはプレミアがありません（でもバスの回数券はプレミアが付いています）流石は商人の街です。3つ目は有名な話ですが、エスカレーターでは急いでる人が左側を駆け登って行きます。4つ目は ヒレカツ が関西では ヘレカツ と呼ばれています。因みにどちらも同じ食べ物です。他にも メンチカツ が関西では ミンチカツ と呼ばれています。それと、タイガース優勝やワールドカップで多くの方が飛び込んでいた 道頓堀川 ですが、私の目から見た印象で言いますと かなり汚れている と思えます。以上、思いつくままに関西の印象を記しましたが、関西出身の方で氣 を害された方がいましたら、大目に見て下さい。最後になりますが、札幌勤務時代には大変多くの方にお世話になりました、この場をお借りしてお礼申し上げます。

